

平成29年度 事業報告



千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



千葉科学大学は、「健康で安全・安心な社会の構築に寄与できる人材の養成をすること（教育目標）、それらの探求を進めること（研究目標）、地域と共生する大学づくり、

平和で文化的な地域づくりへ参画すること（社会貢献の目標）」を大学の目標としています。

本学は「薬学部」と「危機管理学部」の2学部4学科でスタートしましたが、2014年に「看護学部」を増設し、現在は3学部8学科体制となっています。さらに、2018年には「大学院看護学研究科」を開設し、大学の目標達成に向けて教育体制の充実を着実に進めました。

本学は昨年度、新たに「10年後における千葉科学大学のありべき姿（将来像）」として「CIS Vision 2026」を策定しました。このビジョンは、2026年に向けて本学の全教職員が一丸となって目指すべき姿を描いたものであり、【Ⅰ】教育改革、【Ⅱ】研究推進、【Ⅲ】学外連携・地域貢献、【Ⅳ】総合的的学生支援、【Ⅴ】大学運営と内部質保証の5項目を基本骨子としています。このビジョンの実現に向けて設定した中期目標及び中期計画に基づいて、今年度の事業方針及び重点事項を以下のように設定しました。

【Ⅰ】教育改革 各学部・学科で示された3つのポリシーの定期的な見直しに不可欠な「アセスメントポリシー」を策定し、教学マネジメントが適切に機能するように基盤整備を行います。受動的な学習態度から自律的な学習態度へのスムーズな移行を可能とする「初年次教育」の検討と昨年より始めた「リメディアル教育」の効果的なプログラムの策定に取り組みました。

【Ⅱ】研究推進 昨年度、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に採択された「『フィッシュ・ファクトリー』システムの開発及び『大学発ブランド水産種』の生産」は、本学が重点研究対象に掲げてきたものであり、「好適環境水」等の新技術を応用した「フィッシュ・ファクトリー（魚工場）」の実現を目指しています。今年度は、この「好適環境水」の研究を飛躍的に発展させるよう取り組みました。

【Ⅲ】学外連携・地域貢献 2018年度に、事業の最終年度を迎える「地（知）の拠点整備事業（COC）」については、本学が地域活性の中核を担う存在となる基盤形成の成果が得られるよう『防災教育と郷土教育』の充実に取り組みます。「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」では、この事業を通して人口減少や若年層流出が課題となっている地域への就職先の創出に取り組みました。

【Ⅳ】総合的的学生支援 公務員試験対策や国家試験対策をさらに充実させ、合格率を上げるだけでなく、合格者数の増加にも取り組みます。学生生活の支援対策の一環として「安全・安心」、「癒し・憩い」、「活気」の3つのキーワードとした「競争力のあるキャンパスづくり」を目指して、今年度は、キャンパス間のシャトルバスの運行、学生寮の確保や学生食堂などの喫食環境の整備にも着手しました。

【Ⅴ】大学運営と内部質保証 今年度は、企画室及び危機管理室を新設し、大学のマネジメント体制の強化に取り組みしました。教員対象の組織的なFD活動や職員対象のSD活動を通して計画的な人材育成を行いました。また、日本高等教育評価機構による認証評価を受審するにあたり、自己点検評価体制を整備し、中期計画や単年度計画の進捗状況を管理するとともに全学的な自己点検評価を通して、実効性のある内部質保証システムの確立に取り組みました。

千葉科学大学 学長 木曾 功

教育改革

■大学の教育改革に関する目標

(I-1-1) 初年次教育の組織的展開

薬学部では、1年次の成績が卒業時の成績への寄与が大きいことに鑑み、新入生に対して一泊研修並びに薬学入門などの科目において、今年度より作成したC I S修学ナビを用いて大学での学び方の定着を図りました。

初年次教育の組織的展開として、充実したリメディアル教育を実施しました。

『化学』、『生物学』、『物理』・『数学』のプレースメントテストを実施し、アカデミックアドバイザーを中心にリメディアル教育が必要な学生を抽出し、受講させる方法で薬学準備教育の充実を図りました。

危機管理学部では、入学後の教育を円滑に進めるため、入学前に実施するプレースメントテストから習熟度別にクラス分けを行い、フォローアップが必要な学生の把握を行いました。特に医療危機管理学科、動物危機管理学科及び環境危機管理学科の学生に対し、『化学』、『生物』、『物理』の習熟度から学習支援センターの協力を得て、補習授業を含めた初年次教育の組織的展開を行いました。

看護学部では、高校生から大学生への早期転換を図るために4月に新1年生に対して、自分の未来を描きながらスタディスキルを身に付け、自己の危機管理能力を育めるように計10回のスタンダード講座を開催しました。

■リメディアル教育の推進

(I-1-2) 新入生にプレースメントテストを実施し、学力不足の学生に対してリメディアル教育を実施しました。

■大学院の教育改革に関する目標

(I-2-1) 大学院教育の充実

薬学研究科では、大学院教育プログラムについて点検を行い、問題点を改善しました。社会人の受け入れについては、近隣企業の研究所や病院、さらに

は東京サテライト教室の活用も今後検討します。

危機管理学研究科では、危機管理学という幅広い研究分野に対し、明確にしたポリシーを示し、理解できるような研究目的別履修モデルやカリキュラムツリーを提示しました。学部学生に対しては、これらを説明する機会を設け、研究意欲のある優秀な学生の進学を推進しました。また、大学ホームページにおける大学院の項目を充実させ、学外からの受け入れも目指しました。

(I-2-2) 社会人の受け入れ体制の整備

現在、社会人対象の大学院である東京サテライト教室を開講していますが、社会に広く存在を浸透できていないため、学生は一部の分野に限られおり、東京近郊の広報活動を充実させ、10名以上の社会人学生の確保を目指しました。

■大学間連携共同教育推進事業

昨年度に引き続き本学と千葉大学及び城西国際大学による5個のプログラムにおけるEラーニング及び演習を実施し、各大学にて受講修了学生による成果発表会を8月10日、11日に開催しました。

なお、この事業は2017年度で終了となります。

■留学生対象日本語補習講座の開講

1年次生の留学生を対象に1年以内の日本語能力試験N2合格を目標とした補習講座を開講しました。

■社会人大学院東京サテライト教室

社会人の学び直しに 대응するため、在職のままで学位取得の可能な「大学院危機管理学研究科東京サテライト教室」において、危機管理学に関しワン・ストップで総合的に学び、修士及び博士の学位が取得できる大学院教育を推進しました。

■地域志向科目の必修化開講

銚子地域を学習する科目「銚子学」の必修化については、危機管理システム学科から始まり、全学部必修化を順次行いました。来年度からは、危機管理学部と看護学部は一般基礎科目の必修科目として配置し、薬学部は専攻科目の必修科目の中に組み込まれます。

研究推進

■薬学部

薬学部では、新年度の研究活動を充実する目的で、科学研究費の応募をこれまで以上に増やし採択数の増加に繋げる取り組みを行いました。科学研究費以外の外部研究費も可能な限り応募し研究環境の向上を目指しました。また、本年度は共通機器として「細胞イメージ解析装置」を導入し、最先端の機器を使用してさらなる研究活動の向上を目指しました。

■看護学部

開設4年目を迎えた看護学部では、5名の教員が科研代表者となり過年度より継続して研究を進めました。種目は、基盤B1題、基盤C2題、挑戦的萌芽1題、スター支援1題です。また、開設初年度より、千葉県北東地区及び茨城県南東地区並びに実習施設の看護実践者（看護師・保健師・養護教諭）と本学部教員により看護実践研究会を発足し、実践現場の課題に着目した研究活動を行っており、今年度も継続し行いました。

■大学院の充実

学部学生の大学院進学説明会の開催や積極的に研究室の紹介を行い大学院への進学率の向上に努めました。また、社会人対象の東京サテライト教室の充実を図り、社会人がより学びやすい体制づくりや社会人向けの広報活動を行いました。

■研究活動の推進・充実に関する目標

(Ⅱ-1-1)研究活動に係る補助金（科研費等）の積極的な獲得

補助金獲得のサポート体制構築に向けた取組として、科学研究費助成事業を主に、採択された教員等による申請書の書き方等の学内研修会を実施しました。

(Ⅱ-1-2)外部資金獲得のための環境整備

大学シーズを学外に幅広く周知するため、ホームページの作成を開始するほか、産業界のニーズを把

握するため、産業界フォーラム等に積極的に参加し、情報収集を行いました。

■教育研究経費（学内科研費）の活用

学内科研費を設定し、優れた研究内容で研究意欲の高い教員や大学院生に対し、研究支援を行い、項目を定め、特色ある研究に対し、薬学部11件、危機管理学部14件、看護学部10件の合計35件の予算配分を行い研究の推進を図りました。

■本学独自の研究分野における研究拠点の構築に関する目標

(Ⅱ-2-1)「好適環境水」等の新技术を応用したブランドینگ事業の推進

大学発ブランド水産種の陸上養殖技術開発に関する施設・設備を整備し、鮮魚・活魚の安心安全・品質向上を目指した輸送・加工技術開発に関する基礎実験を実施しました。

■大学院看護学研究科看護学専攻修士課程

2017年度に看護学部が完成年度を迎えるにあたり、より高度な保健・医療・福祉の質の向上に広く貢献する看護職を育成する大学院として、本学大学院に看護学研究科を開設するにあたり申請書を提出し8月末に設置認可されました。

学外連携・地域貢献

■地域活性化の核となる知の拠点の形成に関する目標

(Ⅲ-2-1)地（知）の拠点整備事業（COC）の実施

「銚子学」を危機管理学部の4学科で必修化、「プロジェクト学習」では危機管理システム学科において実施し、地域の課題（「銚子の『空き空間』を活用した銚子のまちの再生策の検討」など）に取り組みました。

■「地育・地就」実現のための環境整備に関する目標

(Ⅲ-3-1)地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の実施

銚子市が策定した「しごと・ひと・まち創生総合戦略」の取組に連携団体として参画し、大学シーズを提供することで地方創生に寄与しました。今年度は、銚子市と連携した市民対象の防災士フォローアップ講座を実施しました。

■C I Sフォーラム

有識者による講演会を開催し、大学、企業の担当者が研究成果やシーズを紹介し、産官学金連携を推進しました。10月14日(土)にC I Sフォーラム234名、交流会134名参加がありました。

■ボランティア活動

社会に貢献しながら学ぶ体制を確立するために、学生団体や一般学生にボランティアや地域貢献に関する情報を提供し、参加する仕組みを整備し、円滑なボランティア活動を支援し、銚子市内のスポーツ大会や祭り等の行事(23件)において、延べ307名の学生がボランティアに参加しました。

■銚子ジオパーク

銚子ジオパークとして認定を受けた屏風ヶ浦の地層、犬吠埼の浅海堆積物などを観光資源として活用し地域住民の郷土愛の育成等を通して地元の小中学生・高校生に地元の地質資源の理解及び普及活動を行い「地育地就」にも貢献しました。

■図書館の地域市民への開放

開学以来、図書館を地域、市民の皆様に開放しています。本年度も、図書館報を発刊し、市民との連携を深めました。

■市民公開講座の開催

2012年から市民公開講座を開講していますが、本年度も引き続き大学主催の市民公開講座を年6回開催しました。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望もあり、昨年に引き続き8月5日から9日に教員免許状更新講習を実施しました。

■教育提携校と関係強化

今年度は協定を締結した高等学校との相互関係を一層強化できるよう学生・生徒の研究発表等の開催や高等学校の教員との意見交換会(高大連携推進協議会、高大連携教育研究交流会)を開催しました。

■出張講義の拡大と内容の充実

高校へのお出張講義の実施回数を増やしていくことに努め、知の拠点としての大学の機能を更に発展させました。

総合的學生支援

学生に対する就職支援、キャリア支援、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などを行っています。特に、地元出身学生の増加に合わせて、地元及び周辺地域企業に重点を置いて開拓を行いました。

■就職支援体制の強化に関する目標

(Ⅳ-3-1)戦略的就職支援策の整備

就職ガイダンスを公務員・医療・一般企業別に実施し、12月に100事業所を学内に招き各業界の仕事を理解させる研究会を開催しました。また、一般企業を希望する学生に対しては、就活実践コースを実施しました。

(Ⅳ-3-2)公務員試験対策の強化・合格数増加

春・秋学期のオリエンテーション時に公務員ガイダンスを実施し、8月から翌年2月～3月にかけて学内公務員講座及びハイグレード講座を開催しました。また、筆記試験合格者に対しては、面接指導を徹底し、合格者数の増加に努めました。

(Ⅳ-3-3)国家試験対策の充実・合格者数増加

薬学部では、国家試験対策については、昨年度の問題点について、改善を行い効率的な国家試験対策を実施しました。特に、学生の学習状況に合わせた個別目標を設定して、それぞれの目標の達

成を積み重ねることで国家試験の合格率向上を目指しました。国家試験の準備を進める6年次学生に対しては、自主参加型の補習講義を開講しました。また、1～5年次学生には薬学部での通常講義科目がどのように国家試験の出題問題に関係しているのかを俯瞰できるような講義を行いました。

危機管理学部では、医療危機管理学科において臨床検査技師、臨床工学技士、救急救命士の国家試験を受験しています。それぞれ4年次に行われている国家試験対策をより充実させ、3コースとも全国平均を上回る合格率を達成することを目指しました。

看護学部では、完成年次を迎え、看護師国家試験に75名が受験し、75名全員合格しました。

■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや様々な業界を知る業界セミナーを学内で開催しました。

また、3年次生（薬学科は5年次生）全員との個人面談を実施し、個別指導を実施しました。

■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏期に1、2週間の就業体験を実施し、企業数51社へ68名の学生が参加しました。

■合同業界研究会

各事業所の担当者と本学学生がブース別に面談し各事業所の仕事内容についての説明会を学内で12月9日、10日の2日間開催しました。

■キャリア支援

キャリア支援科目にスタッフを派遣し、自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に伝えました。

■公務員試験対策

2月から3月にかけて公務員採用試験の筆記対策として基礎講座（主に1・2年次対象）、実践講座（3年次対象）を開講しました。また、学内にて面接対

策セミナーを実施しました。

8月から翌年2月、3月にかけて公務員採用試験対策講座（ハイグレード講座）を実施しました。この講座は、主に地方上級職、国家一般職を目指す学生を対象として選抜試験を実施し、対象学生を選出しました。また、業者主催公務員模擬試験を学内で実施しました。

■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行いました。特に銚子及び神栖市周辺の地元企業の開拓に努め、神栖市内で9月6日（水）に就職懇談会を開催しました。また、加計学園3大学共催の就職懇談会（東京、大阪、広島）を開催しました。

■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施しました。

■学生生活の支援対策の整備に関する目標

(IV-4-1) 学生の健康維持・管理に関する支援策の整備・充実

健康維持・管理に関する支援策を整備・充実させるため、本部キャンパスにある健康管理センターだけではなく、マリーナ分室でも同様の対応ができるように整備しました。それにより、体調不良やその兆候がみられた場合でも健康管理センタースタッフが教職員と協働して、より迅速に対応できるようにしました。障がいのある学生支援規程を見直し、障がいのある学生に対する支援策を充実しました。

(IV-4-3) 学生寮の完備・充実

本学敷地外に30名規模の女子寮を設置しました。すでに寮の管理・運営に関する受託業者とオーナーとの打ち合わせが終了し、2018年4月オープンの準備が整いました。

(IV-4-5) キャンパス整備

本部キャンパスとマリーナキャンパスを往来するシャトルバスの運行を10月から開始し、駐輪場の整備及び放置自転車の撤去、講義棟トイレにウォッシュレットの設置を実施しました。

また、省エネを考えながらキャンパスを明るくす

る試みとして、ソーラーライトを使用した照明の計画・設置を学生と一緒に行いました。

■留学生支援

新入生オリエンテーションから日本語や日本の文化に慣れるように在学留学生の協力を得て新入生への指導を行いました。

- ・一日研修旅行 11月13日
- ・加計杯日本語弁論大会 11月18日

■24時間利用可能な図書館

現図書館の横に学生の学習環境の充実を図るために増築した2階建(600㎡)の図書館は、個別学習室やラーニングコモンズ室を設置し、対話型学習が可能な図書館となっています。1階は国家資格対策のため24時間の開放をしています。

国際交流

■English Camp (高校生対象)

銚子市内にある高等学校に通う生徒を対象に本学において3月の2日間英語セミナー(会話を中心)を開講しました。

■ポルトガル語講座(ブラジル)

4月(春学期)に本学の学生と教職員を始め、銚子市の近辺市民対象にブラジルの交換留学生によるポルトガル語講座を15回開催しました。

■海外からの研修団受入

7月	アメリカ・ブラジル研修団
	フィンドリイ仕事体験生
9月	フィンドリイ仕事体験生

■海外へ研修団派遣

8月	ライト大学へ海外研修団派遣
	フィンドリイ大学へ海外研修団派遣
	韓国へ海外研修団派遣
3月	台湾へ海外研修団派遣

■特別科目等履修生受入れ

9月(秋学期)に特別科目等履修生を受入れる予定でしたが対象者はありませんでした。

教育研究環境

■ネットワーク基盤システムのリプレイス

学生が携帯するノートPCを積極的に活用できるよう、ネットワーク教育環境の充実を目指しました。

■キャンパス美化

学内のキャンパス美化について、①学生・教職員の美化意識の向上、②施設のメンテナンスの実施、③アウトソーシング部分の見直しを図り、各種委員会並びに各部署と協力しながら、全学的にキャンパス美化を推進しました。

■省エネの推進

学内の省エネについて、①省エネに取り組める体制作り、②学生・教職員の省エネに対する意識向上、③省エネ設備、器具等の導入の計画等、大学全体で取り組むべき課題であることを認識し取り組みました。

■入試方法等

AO入試において、従来のエントリー制を廃止し、入学願書の出願(自己アピールを含む志望の理由等の課題、高等学校の調査書含む)の後、面接と書類審査で可否判定を行いました。

導入中のインターネット出願を積極的に利用するようPRしました。

■オープンキャンパス

各学部・学科イベントの時間帯に参加者が複数の学科等を訪問しやすいタイムスケジュールとしました。全体会を新設看護学部棟の大講義室で開催し、盛況感のあるイベントとし、参加した高校生が、「この大学で、この学科で、この研究室で、こんな勉強をしてみたい」という夢と希望を持つだけでなく、実現に向けた手伝いができるよう各学科の特色ある研究内容を展示・デモし紹介する企画を実施しました。

大学運営と内部質保証

■FD部会

FD部会は、春学期・秋学期各1回の学生による授業評価アンケート、年数回のFD講演会、公開授業及び意見交換会などを継続して開催し、学生の満足度を向上させる教育改善を目指しました。

■大学のマネジメント（運営管理）体制の充実・強化に関する目標

（V-1-4）危機管理体制の整備・運用

2017年度より危機管理室を設置し、非常時への対応として飲料水・非常用食料等の備蓄を行いました。また、緊急事態対応基本計画マニュアルを作成し、非常時における対応を教員・事務職員に周知し、7月に地震・津波避難訓練、1月に総合避難訓練も併せて行いました。

（V-1-5）適正な学部学科構想の検討

外部機関等を活用し、社会及び保護者・学生のニーズ調査を行い、時代に即した新たな学部・学科のあり方について検討しました。

■戦略的広報対策に関する目標

（V-2-1）学生募集のための効果的な広報対策

・学生募集に係る業者からの提案内容を精査し、それぞれの業者の得意分野などを把握することにより効果的な広報手段を検討しました。

・広報ツールとして活用する紙媒体並びに電子媒体の精選及び比率を見直し、志願者増加に繋がる効果的な広報手段を検討しました。

・大学案内に関し、志願者ニーズに応じた形態を検討しました。

・高校訪問の在り方及び業者主催の進学説明会等への参加について、費用対効果の面から見直しを図りました。

・志願者等からの資料請求等に基づく発送業務を一元化し、後日発生する各種分析業務の精度の向上を図りました。

（V-2-2）一般広報対策

・入試広報室内の情報共有化を徹底し、広報戦略の方向性の一元化を図りました。

・駅看板等の広告媒体に関し、費用対効果の面から見直しを図りました。

・地元自治体などとの連携を図り、各種イベント及びトピック的情報を適宜発信し、大学のイメージ向上を図りました。

（V-2-3）高大連携事業の推進・拡充

・高大連携推進協議会による「高大連携推進教育研究交流会」や「懇親会」で参加者（高校教諭と本学教職員等）との交流を緊密にし、その後の継続的な連携（出張講義等）に繋がる取組を行いました。

■入学者の確保・退学者等の減少に関する目標

（V-3-1）優秀な学生の確保・入学者数の増加

・入学者選抜方法（入試回数、日程、出題科目、募集単位等）の改善について検討しました。

・入試特待生の募集枠等を見直し、優秀な学生の確保に努めました。

・ホームページ等を通じて、ブランド力向上に繋がる情報を適宜発信しました。

（V-3-2）退学者数の削減

・退学希望者には転学部・転学科の制度を説明し、退学者数の減少に努めました。

■教職員の人材育成・確保に関する目標

（V-4-1）教員対象の組織的FD活動による人材育成、FD講演会開催、公開授業及び参観実施後の意見交換会、学部授業アンケート及び大学院教育改善アンケートの実施など、従来のFD活動を行うとともに、副学長を代表としてFD部会を組織し、FDについての新たな取り組みを検討し、実行しました。

（V-4-3）教職員の自己点検制度の確立・運用

薬学部では、来年度に教員の自己点検制度を実施するための予備検討を行い、自己点検項目について整理して、ポイント制の導入など試験的な運用を実施しました。

（V-4-4）職員対象のSD活動を通じた計画的な人材育成

FD・SD委員会の下部組織であるSD部会にお

いて、学園本部研修室と連携して目指すべき職員像を明確にし、職位・職歴に応じたSD講演会、SD研修会等を実施しました。

■内部質保証システムの構築・運用に関する目標

(V-5-1)実効性のある自己点検評価体制の整備・運用

VISIONを達成するため、各中期計画の自己点検・評価を行うとともに、進捗状況を把握し、PDCAサイクルが適切に機能する自己点検・評価体制を構築しました。

■認証評価機関による認証評価の受審準備

第2期大学評価（認証評価）受審に向け、千葉科学大学点検・評価報告書を提出し、10月12日、13日の2日に渡り実地調査を実施しました。

日本高等教育評価機構より、大学機関別認証評価の結果が通知され、日本高等教育評価機構の大学評価基準に「適合」していると認定されました。

主な行事

4月3日	新入生プレースメントテスト
4月4日	新入生オリエンテーション
4月5日 ～6日	新入生一泊研修
4月7日	入学宣誓式
4月8日	在校生春学期オリエンテーション
6月18日	オープンキャンパス
7月1日	別科・特別科目等留学生入試
7月23日	オープンキャンパス
7月31日 ～8月10日	春学期定期試験
8月5日 ～8月9日	教員免許状更新講習会
8月6日	オープンキャンパス
9月9日	教育進路懇談会（地方）
9月16日	教育進路懇談会（本学）
9月17日	オープンキャンパス
9月19日	秋学期オリエンテーション
10月14日	C I Sフォーラム
11月11日 ～11月12日	青澄祭（大学祭）
11月14日	就職懇談会（東京会場）
12月9日 ～12月10日	合同業界研究会
1月23日 ～2月3日	秋学期定期試験
3月3日	就職懇談会（広島会場）
3月10日	就職懇談会（大阪会場）
3月25日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成29年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		取容定員	在学者数				
			留学生	社会人		留学生	社会人	社会人		
大 学 院	薬学研究科（博士一貫）	3	0	0	0	12	2	0	0	
	薬学研究科（博士）	5	1	0	0	15	2	0	0	
	薬学研究科（修士）	10	0	0	0	20	3	0	0	
	危機管理学研究科（博士）	3	1	0	1	9	3	0	0	
	危機管理学研究科（修士）	5	8	0	4	10	15	0	0	
大学院 計		26	10	0	5	66	25	0	0	
学 部	薬 学 部	薬学科（6年制）	120	103	21	0	720	649	56	0
		薬科学科 <small>（募集停止）</small>		—	—	—	0	1	0	0
		生命薬科学科	40	7	0	0	160	70	3	0
		計	160	110	21	0	880	720	59	0
	危 機 管 理 学 部	危機管理システム学科	100	81	8	0	400	334	32	0
		環境危機管理学科	40	9	0	0	160	69	3	0
		医療危機管理学科	80	65	0	0	320	299	1	1
		航空技術危機管理学科	40	7	1	0	160	36	5	0
		動物危機管理学科	40	21	0	0	160	113	0	0
	計		300	183	9	0	1,200	851	41	1
	学 部 護 士	看護学科	80	86	0	0	320	347	0	0
		計	80	86	0	0	320	347	0	0
	学 部 計		540	379	30	0	2,400	1,918	100	1
総 合 計		566	389	30	5	2,466	1,943	100	1	
留学生別科		40	11	11	0	40	22	—	0	

※社会人は社会人入試にて入学した学生数（単位：人）

■卒業生数等一覧

(平成29年度)

区分	修了者・卒業者	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	14	9	9	100%	0	1	3	1
学部	367	310	292	94%	12	59	56	39

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成30年4月1日現在）

(単位：人)

主な就職先	花王㈱、キュービー㈱、㈱クラレ、富士通㈱、日鉄住金物流㈱、タカラバイオ㈱、鴻池運輸㈱、㈱タイガー、㈱ハムリー、銚子商工信用組合、国立研究開発法人 理化学研究所、日本調剤㈱、アイングループ、クオール㈱、㈱ソルハ、日本メディカルシステム㈱、千葉大学医学部附属病院、筑波大学附属病院、順天堂大学医学部附属浦安病院、日立総合病院、匠瑤市役所、成田市役所（保健師）、銚子市役所（保健師）、警視庁、千葉県警察本部、茨城県警察本部、横浜市消防局、千葉市消防局、仙台市消防局、防衛省自衛隊
-------	--

■教職員数

(平成29年5月1日現在)

学長	副学長	教授※	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員 56
1	2	73	21	26	11	6	1	141	

※大学院教授1名含む

※学長・副学長除く

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		29年度 決算額	前年度 決算額
教育活動 収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	3,057,147	3,045,993
	経常費等補助金	338,907	371,101
	その他収入	140,750	139,010
	計	3,536,803	3,556,104
	支出		
人件費	2,375,770	2,338,952	
教育研究経費	1,292,506	1,194,251	
管理経費	437,446	415,406	
その他支出	3,316	1,219	
計	4,109,039	3,949,828	
教育活動収支差額		△572,236	△393,724
教活外	収入		
	受取利息等	4	5
	支出		
借入金利息等	4,123	4,679	
教育活動外収支差額		△4,119	△4,674
経常収支差額		△576,355	△398,398
特別	収入		
	資産売却差額等	40,550	2,268
	支出		
資産処分差額等	46	1,549	
特別収支差額		40,504	719
基本金組入前収支差額		△535,851	△397,679
基本金組入額合計		△326,011	△353,472
当年度収支差額		△861,861	△751,152

■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
次世代型陸上養殖施設新築工事	64,248
駐輪場新設工事（クラブハウス棟裏）	12,402
駐輪場新設工事（薬学部附属棟裏）	6,283
大型飼育水槽一式（4セット分）	37,973
純水製造装置一式	5,940
看護学部看護学科図書購入（創設費）	2,500
キャンパス間移動用シャトルバス	6,487